

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000607		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホーム えべつ		
所在地	江別市3条1丁目5番		
自己評価作成日	平成22年10月26日	評価結果市町村受理日	平成22年12月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171000607&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

”入居者様の人格を尊重した質の高い介護と、高い倫理感に基いた介護職員の育成”を掲げ、全職員が心1つにして取り組んでいます。(具体的には、研修参加や勉強会の充実をはかることでの介護のスキルアップ、常に自己を振り返ることで自己研鑽や心身のコントロールをはかり、明るい気持ちで心地よい職場環境をつくりあげることです。)そして、より温かく行き届いたホームとしていくことを目指しています。また、ハード面においては近年の火災発生時の教訓とし、スプリンクラーの設置工事も始まることとなり、より安心した生活提供が図れることです。今後も、自身のホームのみならず、近隣の施設とも連携をはかり、介護職全体の質の向上と介護職人口の増加に貢献できるよう、各方面からの研修受け入れを積極的に行なっていきます。そして地域のために貢献した高齢者の方々に”多くの還元”をもたらすことのできるグループホームになりたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念を通じて、理念に込められた思いや目指すべきホーム像を職員一人ひとりが自覚しながら毎日のケアにあたっています。特に、利用者の思いや視点を大切に、言葉で伝えられない利用者にあっても、生活の質を高め、快適に生活するためにはどのようにしていくかを職員が丹念に話し合っています。利用者の視点に立ったアセスメントの実施や、身体状況、利用者を取り巻く環境・生活歴など、多角的な分析を行いながら利用者一人ひとりはもちろん、同じユニットで生活する利用者同士が安心して快適に暮らせるように支援しています。そのための職員の研修や情報の共有などには力を入れており、職員が力を合わせて問題を解決していく体験の積み重ねも職員の知識の向上や意欲につながっています。また、地域との協働についても具体的に検討されており、地域や近隣の高齢者関連事業所への働きかけなど、今後の取り組みが期待されるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況			次のステップに向けて期待したい内容		
I. 理念に基づく運営								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基本とし日々の介護にあたるよう、朝の申し送り後は職員全員にて唱和し気持ちを一つにして1日の始まりとしている。また、常に理念を意識し業務にあたるよう、個々が携帯している。	毎日職員が理念を唱和する機会を設けています。理念に込めた思いについて、管理者が実際のケア場面で職員に説明し理解を深めています。				
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し集まりや行事に参加させて頂いている。近所の方とは、お花の球根を頂いたり困りごとを相談させて頂くこともあり。	ホームが位置する地域は高齢化が進んでいますが、日常的な交流を通じて地域とホームがお互いに支え合う関係を築いています。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行動に認知症状を窺わせる方が遊びにいらしたときはできる限りで対応し、とりまく方々と連絡・情報提供ができるよう体制を整えている。中学生職業体験授業への協力も行った。					
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	非難訓練をテーマにした推進会議では、即席担架の作り方・コンセント廻りの掃除の大切さを教えて頂く。左記を職員周知とし、知識の引き出しを増やすと共に、日々の清掃業務に生かしている。	ホームの透明性を図り、地域や家族等の関係者に理解と助言を受ける機会として積極的に取り組んでいます。また今後はホームの持つ知識や機能を地域に発信する場として検討しています。				
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政連絡事項はメール配信にて迅速に対応して頂いており、メールの活用でより身近に感じる場面は多々ある。	行政の関係部署に足を運び、相談や確認を行っています。またホームへの訪問を受けるなど、ホームの運営が適切に行われるように連携しています。				
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束はなく、玄関の施錠は一般の家庭同様、夜間のみとしている。また、言葉での拘束にも十分に意識を高め（都度適切か否かを話あったりし）ケアにあたっている。	全職員が身体拘束防止及び虐待防止について研修で学び、日頃のケアについて振り返りを行っています。玄関の施錠を含め拘束をしないケアを実践しています。				
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを全職員が所持し周知徹底すると共に、自己評価によるケアの振り返りや研修の充実をはかり、風通しのよい職場環境で協力体制を発揮できるよう取り組んでいる。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	精通しているのは一部の職員のみで全体への浸透はうすいと感じる。今後の勉強会テーマとして取り組む必要がある。成年後見制度に関しては必要と思われる入居者様もおらず活用には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	1言1句をわかりやすくご説明し、ご理解を頂いている。（ときに例を提示しながら）		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望やご意見は、ためることなく都度対応させて頂くと共に、ご意見箱の設置をし、運営推進会議にても発言が活発に行えるようはかっている。できる限り迅速に取り組み解消に努めている。	ホームや、必要に応じて法人の担当者が迅速な取り組みができるようにしています。日頃から報告を密にし、家族との信頼関係を大切に意向を汲み取るようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を実施し、よりよい職場環境の構築に努めている。（1年に1回、または必要時を原則として）また、ユニット会議は月1回開催とし意見交換の場となっている。	面談などで得た職員からの意見を反映してホームの課題を改善したり、待遇面の向上を図るなど、働きやすい職場環境作りをしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種研修の設定・参加の促し、実践者研修・外部研修参加の奨励、関係書籍の購入など前向きな対応としている。給与面においても昇給は明記されており、勤務年数や資格取得に反映される形態となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人評価のシステムも確立されており、関連職種を活用した研修設定も都度ある。また、学習会は月に1度テーマを決めて取り組んでいる。外部研修参加は積極的に推奨する体制を更にした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は残念ながらない。が、11月オープンの系列GHへの内部研修を来年3月に企画、実施予定。また、近隣には他者GHと特定施設が隣接しているため合同研修開催などの交流をはかっていきたいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の事前面談においてニーズの把握には特に留意している。早く生活に受け込めるよう声かけを多くし、全てに快・不快を確認しつつ、受け止めの姿勢を大切に関わっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	希望されることは聴きおとしがないよう留意している。金銭面に関しては、特に、配慮を怠ることなく接している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療保険や自立支援の観点からのサービス利用を提案させていただいた入居者様もあり。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除機かけや食器ふき、手すりの拭き掃除、ダンボールたたみなど生活の随所において快と感じて取り組んでいただける活動を発掘し共に行っている。時に相談にのってもらい意見を伺う場面もあり		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事やお誕生会への参加のお誘いや、遠方にいらっしゃる家族様とは電話でお話して頂き、常に家族様の存在を感じながら生活が送れるよう配慮している。面会や電話時は近況をお伝えし、ときに助言を頂き介護に生かしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前より町内に住んでいらした方は懇意にされていた近所の方々の面会がありおしゃべりを楽しまれている。	古くからの友人などの来訪時にも居心地良く過ごして頂けるよう配慮しています。また馴染みの美容院や図書館の利用など、地域との関わりを大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間のソファを談話のメインスペースとし、お茶会や唄・体操といったレクを皆で共にする時間を設け、1日1回は必ず顔を合わせている。輪の中に入れない方がいるときは“おいで”と入居者さんからの声かけもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した方のほとんどが療養型へ転院され、その後ご逝去に至っているため継続的な関係構築のケースはなし。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の行動記録や申し送りの際の情報提供やプチカンファの開催、月1回の会議において全職員の見解を共有/検討とし、快の空間作りに努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時はセンター方式のアセスメントシートの記載を家族様に依頼し、関係機関との連携にて情報の収集を行っている。(本人様から教えていただきつつ)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の援助手順は確立されており、都度の変化にも対応できるよう連絡ノートも活用し取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者・計画作成者が主体となり、家族様、医療関係者などからのそれぞれの見解を取りまとめ、介護計画へ反映されるようはかっている。	センター方式のアセスメント様式の活用を含め、利用者本位の計画となるようにしています。計画には多職種が関わり多角的に検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録、カンファレンスシート、連絡ノートを活用し模索、実践することでアセスメントや評価につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能は域で取り組んでいる。最近では外来リハから依頼されたメニューを介護職員が対応できる範囲内で日々の生活に取り入れ関わっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館の利用やボランティア(体操・折り紙)来訪があり。春夏は草取りが好きな方のため隣接地での作業に持ち主に許可を頂き、励んで頂いた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からの主治医フォローの他、訪問診療もご説明し、家族様にとっても関わりやすく納得がいく医療を受けられるよう選択して頂いている。両者の利点のアドバイスも行っている。	ホームの看護職が、かかりつけ医や家族との情報の共有を図っています。また、受診の結果を介護職と共有し、日常の健康管理に活かしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日はおおあさクリニックのナースラウンドがあり、体調管理が万全となっている。異変時、対応へのアドバイスを頂くことで適切な臨時受診などへつなげている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域医療連携室とは協力体制で関わることは基より、関係機関のおおあさクリニックSWの尽力も得られスムーズな連携がはかれている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームとしての許容範囲を明示しつつ、状況に応じてリビングウィルを都度確認し対応としている。過去においては要望に応じ療養型への転院の手配も行なった。	リビングウィルについて契約の段階で利用者や家族と話し合い、生活の中で段階ごとに希望を聞いています。未実施ではあるものの、基準等について話し合っています。	会議で取り上げたり、家族と個別に話し合っていますが、ホームとして文章化には至っていません。検討されている具体的な方向性について、文章化することを期待します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の受講などで緊急時に対応できるよう整えてはいるが、定期的な訓練には及んでいない。緊急対応時の手順は全職員が熟知している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の非難訓練の実施、災害時等の避難場所の明記・周知としている。地域の皆さんには危険のない範囲で発生時におけるの同居者様のお世話を依頼している。	年2回の避難訓練には地域住民の方々の参加も得ています。高台にある法人施設への避難など、状況に合わせて活用できる体制があります。	今後は、地域の協力体制の強化として近隣福祉施設との協力関係構築などが検討されています。運営推進会議等を通じて、ホームの課題解決を進めていくことを期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧を好まれる方、ざっくばらんを好まれる方、人それぞれの個性に応じて心に添う言葉かけを使い分けし、ケアにあたっている。	ホームでは、一人ひとりの人格の尊重と、利用者みんなと一緒にいる安心感を大切にしながら支援しています。	職員の思いと利用者の意思が合致しない場合などの事例を検討し、尊厳とは何かについて学んでいます。「真心」のこもったケアを推進する取り組みとして期待します。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いが表出できるよう傾聴を大切にし、迷われるときは選択しやすい状況を整えて対応し、押し付けや”だろう”とはならないよう留意している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に自分で決められたことを優先し生活環境を提供しているが、体調面などに支障がでることが予想されるときは集団生活にも融合できるようとり図るときもある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	保清を整えることはもちろんのこと、着あわせや好みの色などにも配慮し声かけや支援を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理関係を好まれる方は極一部の方に限られているが、軽作業にも共に行うことで満足されている。	ユニット毎に好みを反映したメニューを提供しています。健康に留意しながら、スイーツバイキングなども実施しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適切カロリーを提供。毎日毎回、食事・水分摂取量を記録し把握している。刻み食提供の方はおり、必要に応じてミキサー、とろみ使用と臨機応変に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で行える方もさりげなく、見守りし清潔を確認している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ベッド上での排泄はなし。失禁される方には時間を勘案したトイレ誘導を実施し、自尊心への配慮や皮膚の保清に努めています。トイレは4基あり、使いやすいトイレへと誘導している。	おむつを使用していてもできるだけトイレでの排泄ができるよう、さりげない誘導を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や水分を沢山摂取できる食事提供し、排泄表を用いてトータル的な排便コントロールを行い、日中は離床を心がけ腸閉塞等の異変を防いでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	身体に負担をかけない回数、快を感じる時間帯などに配慮し関わっています。ご自身で入浴できる方は毎日入れるよう、ご用意を整えている。レクなどの都合で変更をお願いすることはあります。	週2回から希望により毎日の入浴まで、希望や体調に配慮しながら支援しています。体への負担と入浴の気持ちよさのバランスを考え、時間や介助の人数なども検討しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の勧めや適切な時間での入床のうながしとしている。ゆったりとした気持ちで夜を過ごせるよう夕食後より21:30までは2名体制の職員配置。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理・介助は充分に行えている。薬包には薬名を印刷してもらい、誤薬防止・薬への知識や用法への理解とつなげていけるよう啓発している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	声かけ、歌、踊り、偏らないTV番組の提供など、生活細部に配慮し快適空間を演出している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方と出かけることはないが、日常的には敷地内での日向ぼっこや体調に合わせた散歩を、随時行っている。畑があるため毎日野菜の世話や草取りを楽しまれる方もいる。また、年2回のバスでの遠出レクもあり。	散歩や買い物で商店などに出かけたり、日向ぼっこなど、機会をみつけて外に出かけるようにしています。図書館で本を借りたり、買い物をしたりと利用者の希望や自立などの機会としても活用しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	限られた方のみ、お小遣い持参の買い物支援を行なっている。金銭は基本、事務所預かりとさせて頂いているので外出の際にお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望されるときは子機を自室にお持ちしてかけて差し上げる。手紙は代筆を頼まれたときのみ対応だが、最近は殆ど希望がなし。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には手書きの表札をかけ、季節を感じる壁飾り、折り紙教室で作った作品や趣味の絵を展示し温かみを演出。手作り日めくりは毎日欠かさずことなくめくって頂け、TVの音量や入切の時間に配慮し快適空間を心がけている。冷房完備にて必要時使用あり。	バリアフリーの設計となっており、安全に配慮しながら、ゆったりと過ごせるように季節感を演出し、家庭的な雰囲気や装飾を行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブル空間は2箇所、TVを設置したソファ空間を1箇所、机として物書きができる空間が1箇所あり、随時状況に応じての誘導や対応としている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様や家族様の思いのこもった家具を搬入頂き、なじみの落ち着いた室内づくりとしている。転倒の危険がありと判断するときはご相談とし、安全性を高めている。	居室での利用者のプライバシーを大切にしながら、身体の状態などに合わせて怪我や混乱が起きないように職員が家具の配置や工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置等転倒を防止する安全環境を整え、トイレや個々の居室がわかりやすいよう工夫をこらし、混乱なく毎日を穏やかに過ごせるよう支援している。		